

駐日ラテンアメリカ大使インタビュー <第3回パラグアイ>

トヨトシ駐日パラグアイ大使

人と人の交流をもっと活発に

―「日本人の心」でパラグアイに貢献―



パラグアイ共和国のトヨトシ・ナオユキ（豊歳直之）駐日大使はこのほど、ラテン・アメリカ協会編集部のインタビューに応じ、パラグアイの政治・経済情勢、対日関係、現地日系社会などについて見解を表明した。

大使は日本生まれの日本育ち、日本の大手船会社勤務を経て、アルゼンチンに渡り、その後パラグアイに移住。自ら事業を起こし、大成功を収めるという異色の経歴を持つ。現地の日本商工会議所会頭や日本人会連合会会長などを歴任、日本パラグアイ学院の創設にも尽力している。

大使はインタビューの中で自身のユニークな経歴を振り返り、「日本人の心でパラグアイのために尽くしたい」と抱負を述べるとともに、パラグアイと日本の関係を発展させるには「人と人との交流が重要」と強調し、人的交流の強化に力を入れる考えを明らかにした。

大使インタビューの一問一答は次の通り。

―大使は日本生まれで、早稲田大学出身の元ビジネスマンというご経歴をお持ちですが、パラグアイの駐日大使として任務に就かれていることに特別の思いがあたりでしょうか。

大使 2 年前に大統領に要請されて、苦悩の末、日本国籍を離脱し、パラグアイの駐日大使に就いたのですが、長い人生を日本人として過ごして来た訳で、日本人の心でパラグアイのために働いていると考えています。

私の前任のタオカ大使も日系 1 世であり、パラグアイアの駐日大使は私で 2 代続けて日本生まれの大使ということになります。

―大使が 2009 年 10 月に着任されてからこの間、大使としてのお仕事で最も印象深いのはどのようなことですか。

大使 天皇皇后両陛下及び皇室の方々とは色々な機会にお逢いできたことが大変に印象深い点です。

また、日本の一自動車部品工業のパラグアイへの誘致に成功し、同社も順調に生産、輸出を行っており同社に感謝されたことも忘れられません。

昨年のパラグアイ独立 200 周年事業として、パラグアイ展を開催、パラグアイ同胞及び日本のパラグアイファンを招待して、祭典とアサー

ド（バーベキュー）大会を成功裏に実施したことも印象深い出来事として挙げられます。

東北大震災でパラグアイの諸団体より義援金が送られて来ましたが、その一つに被災地向けにパラグアイ産の非遺伝子組換え大豆を使用し、日本の豆腐屋さんに百万丁の豆腐を製造してもらい、この製造と配布の費用をパラグアイ国及び民間の義援金で賄うというプロジェクトに参加して、今年の 2 月 22 日に百万丁の配布を完了したことも重要な仕事の一つです

さらに、駐ベトナム大使を兼任している関係で、パラグアイ大統領が昨年大震災前の 3 月にベトナム公式訪問した際、大統領に同伴し、訪問を成功させたことも大変重要だったと考えております。

ー昨年 6 月、当時の松本剛明外相がアスンシオンを訪問、ルーゴ大統領と会談するなど、両国関係も徐々に発展しつつありますが、現在の両国間関係についてどのように見ておられますか。

**大使** 1936 年から始まった日本人移住者の功績と戦後 1956 年からの日本政府の経済援助のお陰で、パラグアイ＝日本両国の友好関係はゆるぎないものとなりましたが、今後は出来るだけ多くの日本の方々にパラグアイをもっと知ってもらふことが必要だと感じます。パラグアイはサッカーだけではないことを多くの人に分かっていただきたいのです。

ー今後、両国関係をさらに発展させるためには何が重要とお考えですか。

**大使** 人と人との交流をもっと活発にすることが重要でしょう。パラグアイから日本に来るだけでなく、日本からも向うに行くというような交流が一層盛んに行われるように私としても力を入れたと考えています。

ー日本ではパラグアイなど南米諸国について、鉱物資源や食糧供給の重要なパートナーであり、相互補完的な関係を築くべきだとの意見がありますが、大使はどう思われますか。また、日本との間で経済連携協定（EPA）を結ぶような考えがパラグアイにあるのでしょうか。

**大使** パラグアイには鉱物資源は未だ発掘されておられません。しかし、食料供給の重要なパートナーになれることは確かであります。但し、日本の輸入食品に課されている関税外障壁とも考えられる食品衛生基準値を見直すべきと考えます。

パラグアイはメルコスールのメンバーであるため、独自に二国間経済連携協定を結ぶことはできません。

ー2008 年に約 60 年ぶりの政権交代を果たしたルーゴ現政権については当初、いわゆる「南米左傾化」の一例と、マスコミが伝えましたが、現在、ルーゴ政権はどのような政治・外交路線をとっているのでしょうか。

**大使** ルーゴ政権は当初より一貫して左派的政策を行って来たというか、行おうとして来ました。しかし、議会での支持は思うように得られず苦慮しているのが現状です。外交は当然のことながら、ベネズエラ、エクアドル、キューバ寄りとはいえ、他の諸国とも友好的関係を保っています。

ー来年のパラグアイ大統領選の見通しはどうでしょうか。

**大使** パラグアイは大統領再選が憲法上禁止されているため、ルーゴ現大統領は候補者になれず、彼の左派グループの候補者も、彼と組んだ与党のリベラル党の候補者も未だ決まってい

ません。

一方、野党のコロラド党も候補者選出の選挙運動中ですが、企業家のカルテス氏が有力視されています。大統領は副大統領と組んでの直接選挙であるため、国民の人气が誰に集中するか最後まで予断が許されないという事情があります。上記 2 大政党以外の少数政党の候補がルーゴ大統領のように国民の人气を得て大統領に選出されることも考えられると思います。

ーパラグアイ経済は昨年も 6%強の成長（IMF の調査）を遂げるなど好調のようですが、今年の見通しはどうでしょうか。また、経済面での課題は。

**大使** パラグアイは 2010 年には 14.5%と世界でも 3 番目、ラテンアメリカでは最高の成長率を記録しましたが、今年は、最大の産物である大豆が旱魃で被害を受け、また、第二産品の牛肉も口蹄病が出て輸出が減少したため、経済成長率は多くとも 3.5%位と予想されます。

パラグアイでは人口が毎年 2%以上の増加率で増えているため、雇用の問題が更に深刻化する恐れが出ています。このため農産物の加工と労働集約的工業の投資が要望されているのです。

ーパラグアイも加盟しているメルコスールが存在感を増していますが、パラグアイの対メルコスール政策、またメルコスールの今後の発展の見通し等についてお考えをお聞かせください。

**大使** パラグアイにとってメルコスールはメンバー国の巨大な市場を視野に入れ、また、メルコスールのメンバーとして世界の経済圏にも進出する理想的な共同市場協定だったはずなのです。

しかし、現実とは異なり、小国で、海を持たないという大きなハンディを持つパラグアイに巨

大な隣国から特別の考慮がなかったばかりか、自国産業を優先するため、非関税障壁でパラグアイ製品の輸出がスムーズに行われず、更にはパラグアイの第三国への輸出品の通行さえも妨げられているというのが実状です。

また、先述の通り、第三国との経済連携協定を結ぶことは叶わない。しかし、パラグアイは地政学的にメルコスールを離脱することは考えられず、問題をひとつひとつ解決する努力を続けていかなくてはならない運命を背負っているのです。

ーパラグアイには 1936 年に日本人が初めて入植、現在約 7 千人の移住者・日系人が暮らしているとお聞きします。現地の日系コミュニティと日本について教えてください。また日本に対するコミュニティの要望などなどがありましたら、お聞かせください。

**大使** 日本人移住者はその勤勉さと筆舌に尽くせぬ努力により密林を広大な農地に変え、最初はトマト等の蔬菜栽培、そして後には大豆栽培で大成功しました。

ただ、日本人皆が成功した訳ではなく、不運な生活を余儀なくされた人もいました。そして、1990 年代から日本の好景気と労働力不足に魅せられ、日本人、日系人、日系人と結婚したパラグアイ人、その子息たちが日本に所謂出稼ぎにやってきました。

近年は日本の経済状況の悪化で、多くの人がパラグアイに帰国しましたが、それでもパラグアイ大使館に登録されている在日パラグアイ国籍の人数だけでも 2,800 人に上ります。

一方、パラグアイ在住の日系人は今では NHK の衛星放送やインターネットを通じて日本の情報を得ることができますが、やはり、故国日本との交流を深めたいとの強い要望があります。

（インタビュアー：山崎 真二 協会事務局長）